

病害虫発生予察情報予報第 13 号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名	4月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
大麦・小麦	赤かび病 ^{注3)}	並	やや少	132~134	 赤かび病
	うどんこ病	並	並	135	
	1. 赤かび病 防除適期は、大麦で、葯殻抽出始め（出穂期の約2週間後）で、更に、その7日後頃に2回目の散布を行うと効果が高まる。 小麦では、開花期～開花最盛期（出穂期の約10~14日後）である。更に、その10~20日後に2回目の散布を行うと効果が高まる。 ただし、本年産は播種時期の遅れにより、全般的に生育が遅延しており、圃場ごとの生育状況を確認し、適期に防除を行う。				
大麦	網斑病	やや少	少	131~132	
	1. 網斑病 発生が認められる圃場がある。発生状況を確認し、出穂期～穂揃い期に本病を対象とした薬剤防除を行う。				
水稻	いもち病	並	やや少	133~142 144~149	 いもち病
	ばか苗病	並	並	133~142	
	1. いもち病 近年、発生が多いため、既存の種子消毒剤にベノミル水和剤を加えた種籾消毒を徹底し、いもち病常発地帯では育苗期から防除を行う。				

作物名	病害虫名	4月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
タマネギ	べと病	早生 ^{注4)}	やや多	278~280	 べと病 越年罹病株
		中晩生	やや多		
	ポトリチス葉枯症	やや少	並	280~281	
	ネギアザミウマ	やや少	並	287~288	
1. べと病 4月は本病の二次伝染が最も盛んに起こる時期であり、短期間の連続した降雨により発生が拡大することがあるため、引き続き、定期的な薬剤防除を確実に実施する。（平成29年3月7日付注意報参照） 中晩生品種では、移植時期の遅れにより越年罹病株の発生が遅延する可能性があるため、抜き取りを継続する。					

作物名	病虫害名	4月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ (本圃)	ハダニ類	やや多	やや多	205~206	 ハダニ類
	うどんこ病	少	少	195~197	
	灰色かび病	並	並	198~199	
	アブラムシ類	並	並	210~211	
	<p>1. ハダニ類 多発生圃場が認められる。発生状況を随時確認するとともに、薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。</p> <p>2. アザミウマ類 本年は発生が多い。本虫による被害を防ぐため、低密度時からの防除を徹底する。</p> <p>3. 親株でのハダニ類、うどんこ病、立枯性病害 健全苗を育成するため親株床から薬剤防除を実施する。立枯性病害（炭疽病、萎黄病、疫病）の苗での発生を抑えるため、発病した親株は、見つけ次第圃場外で適切に処分する。</p>				
キュウリ	べと病	並	やや少	175~176	 ミナミキイロアザミウマ
	うどんこ類	多	多	173~174	
	褐斑病	やや少	並	178~179	
	アザミウマ類	やや多	多	152~156 187~188	
	コナジラミ類	並	並	186~187	
<p>1. ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミ 黄化えそ病や退緑黄化病を媒介するため、薬剤防除を徹底する。また、スワルスキーカブリダニを利用する場合には、両害虫の密度を薬剤防除により抑えた後に放飼する。</p>					
トマト	葉かび病	やや少	やや多	222~223	 タバココナジラミ
	灰色かび病	やや少	少	217~218	
	コナジラミ類	やや少	やや少	149~151 225~227	
	<p>1. 葉かび病、灰色かび病、疫病 こまめな換気を行うとともに、循環扇や加温機を活用し、施設内および葉面の結露を防ぐ。特に、夜間の気温が高いと予想される際には、加温機の送風機能や循環扇を利用し夜間送風を行う。また、発病部位の早期除去、予防的な薬剤散布を組み合わせで防除する。</p> <p>2. 黄化葉巻病・黄化病 一部の圃場で発生が見られる。発病株は抜き取り、適切に処分するとともに、媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。トマト黄化病については、発生予察特殊報第1号を参照する。</p>				
ナス	すすかび病	少	少	232~233	 コナジラミ類
	灰色かび病	やや少	やや少	231~232	
	菌核病	並	並	234	
	アザミウマ類	並	やや多	152~153 238~239	
	コナジラミ類	並	やや多	149~151 239~240	
アスパラガス	アザミウマ類	並	並	321	
	アブラムシ類	並	並	322	
<p>1. 茎枯病 立茎開始初期から10~20日間隔で防除を行う。</p>					

作物名	病虫害名	4月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
カンキツ	そうか病	並	並	218~220	
	かいよう病	並	並	222~224	
	ミカンハダニ	やや多	やや少	242~244	
	<p>1. ミカンハダニ 殺ダニ剤に対する抵抗性発達を避けるため、4月~6月下旬はマシン油乳剤の使用を基本とする。ただし、樹勢が低下している樹や着花が少ない樹では、マシン油乳剤の散布を控え、殺ダニ剤散布で対応する。</p> <p>2. かいよう病 前年発生園や風当たりが強い園、罹病性品種（ネーブル、はるみ等）の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、展葉初期の防除を徹底する。</p>				
ナシ	黒星病	並	並	287~290	
	<p>1. 黒星病 開花直前~落弁期は本病の重要防除時期であるため、7~10日間隔での薬剤防除を徹底する。SSで散布を行う場合は必ず全列散布を行う。なお、降雨が続く場合はDMI剤の追加散布を行う。</p>				
ブドウ	黒とう病	並	並	334~336	
	<p>1. 黒とう病 新梢・新葉への感染を防ぐため、萌芽期~生育初期の薬剤防除を徹底する。</p>				
フルーツ キウイ					
果樹全般	果樹カメムシ類	並	やや多	かキツ：248~251 ナシ：304~305 ブドウ：351	

作物名	病虫害名	4月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
茶	カンザワハダニ	並	並	415~416	
	<p>1. カンザワハダニ 多発してからでは防除効果があがりにくいいため、低密度時からの防除を徹底する。</p> <p>2. チャトゲコナジラミ 発生地域：本虫は裾部の葉に寄生していることが多い。密度を低く抑えるため、発生茶園では被覆前に裾刈りを実施するとともに、若齢幼虫期に薬剤防除を徹底する。 未発生地域：定植苗に本虫の寄生がないか確認を行う。定植後に本虫の寄生を確認した場合は、若齢幼虫期に薬剤防除を徹底する。</p>				

作物名	病害虫名	4月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
キク	白さび病	やや少	並	380~381	 クロゲハナアザミウマ
	アザミウマ類	並	並	384~385	
	アブラムシ類	並	並	386~387	
	ハダニ類	やや少	やや多	385~386	
	ハモグリバエ類	やや少	並	388~389	
1. アザミウマ類 今後、施設外からの侵入が増加するため、圃場周辺の雑草を除草するとともに、圃場内の発生状況を随時確認し、低密度時からの防除を徹底する。					
2. ハダニ類 気温の上昇とともに増加するため、発生状況に注意し、低密度時からの防除を徹底する。					

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病害虫防除のてびき](#)」も参照してください。

注3) 病害虫名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 6 ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

4 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 4 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 29 年 3 月 24 日）を基に、「気温：平年並」、「降水量：平年よりやや少ない」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 4 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	30	30 (15.0℃)	40	並
降水量	40	40 (156.2 mm)	20	やや少

Ⅲ. 4月の予報

麦類

巡回調査（大麦 22 圃場、小麦 22 圃場）
調査日：3月15日～17日



巡回調査圃場の様子（左：大麦、右：小麦）

1. 赤かび病

1) 予報の内容

発生時期：平年より早い（前年並）
発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 麦の生育状況と本病の発生時期

平成28年12月9日播き大麦、小麦の節間伸長開始期は平年並。今後、気温が平年並で経過すれば、出穂期は平年より早くなる見込みであり（農業試験研究センター・県米麦改良協会：平成29年3月22日付け麦つくり情報第4号）、本病の発生時期は平年より早くなると予想される。

ただし、本年産は播種時期の遅れにより、全般的に生育が遅延している。

(2) 4月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂期以降に高温（20～27℃）で、降雨が続く場合には多発することが予想されるため、追加防除を実施する。
- (2) その他については、特記事項を参照する。

2. 網斑病（大麦）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生茎率0.1%（平年2.2%、前年3.7%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：少（-）

(2) 4月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

特記事項を参照。

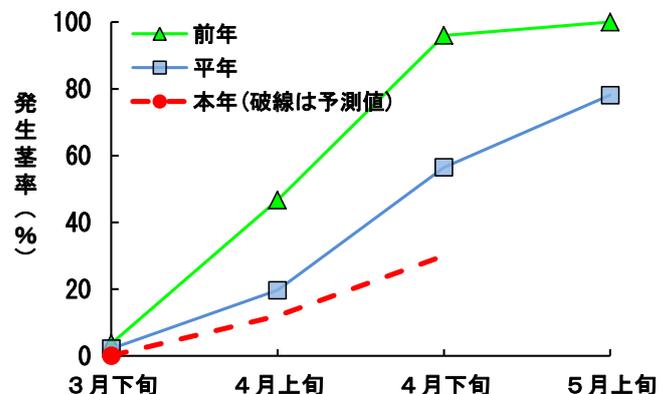


図1 大麦網斑病の発生推移

水稻

1. いもち病（苗いもち）

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 前年の穂いもちの発生状況

平成28年の穂いもちの発生株率は、上場地域の早期水稻（8月上旬）で10.7%（平年4.0%）、北部山間の早植え水稻（9月上旬）で5.8%（平年11.7%）、普通期水稻（10月上旬）で13.4%（平年13.0%）であり、早期は平年より多く、早植えは平年よりやや少なく、普通期は平年並であり、圃場等での菌密度は平年並と考えられる。（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 種子更新を徹底する。
- (2) 育苗箱で種粒が露出すると本病が発生しやすいので、覆土を適正に行う。
- (3) 苗いもちがみられたら、早急に取り除くとともに防除を行う。
- (4) 長期残効型の育苗箱施薬剤を施用する。
- (5) その他については、特記事項を参照する。

タマネギ

巡回調査 (16 圃場)
調査日: 3月17日



巡回調査の圃場の様子

1. ベと病 (早生マルチ)

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率: 0.14% (平年0.50%、前年1.66%)

平年比: やや少 (一~±)、前年比: 少 (一)

【実際の発生はこれより多いが、越年罹病株の抜き取りにより低減されているとみられる】

②抜き取りの不十分なほ場が一部でみられる。 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

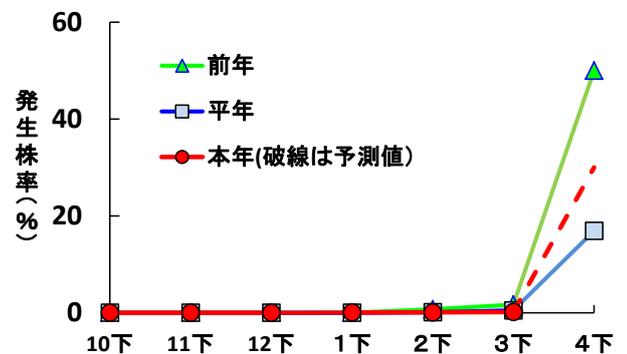


図1 早生マルチタマネギでのべと病の発生推移

2. ベと病 (中晩生)

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率: 0.31% (平年0.36%、前年2.20%)

平年比: (±)、前年比: 少 (一)

【実際の発生はこれより多いが、越年罹病株の抜き取りにより低減されているとみられる】

②抜き取りの不十分なほ場が一部でみられる。 (±~+)

(2) 移植時期

平年に比べると遅れたため、本病の発生時期は遅延し、今後、越年罹病株が発生する可能性がある。 (±~+)

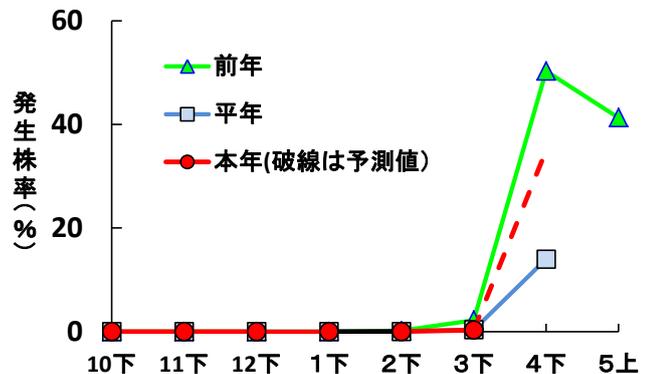


図1 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

3. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率: 0% (平年13.7%、前年1.3%)

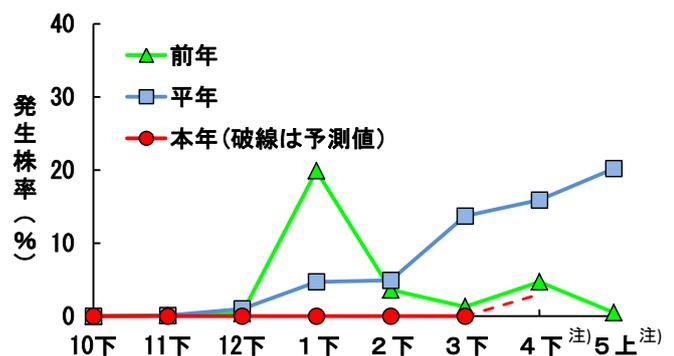


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件（一～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期の防除を徹底する。

4. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：1.4%（平年8.6%、前年2.8%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

(2) 4月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本虫は薬剤がかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、かけむらがないように散布する。

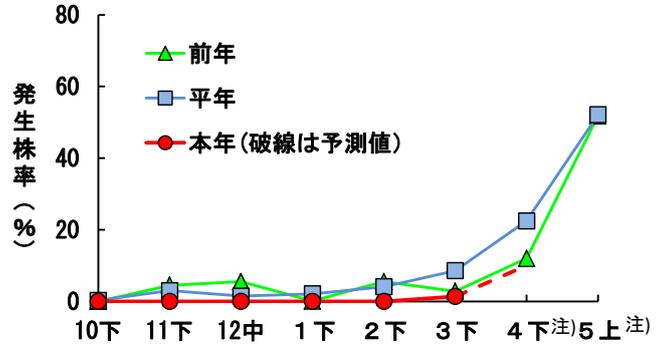


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

イチゴ（本圃）

（巡回調査 12 圃場、
調査日：3月15日～17日）



巡回調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：30.3%（平年20.3%、前年28.3%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：並（±）

②病害虫防除員による調査（6圃場）

4圃場で発生確認、発生株率は16.7%（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場によって薬剤の感受性が異なるため、防除効果を確認しながら、防除薬剤を選定する。
- (2) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的に防除を行う。
- (3) その他は特記事項を参照。

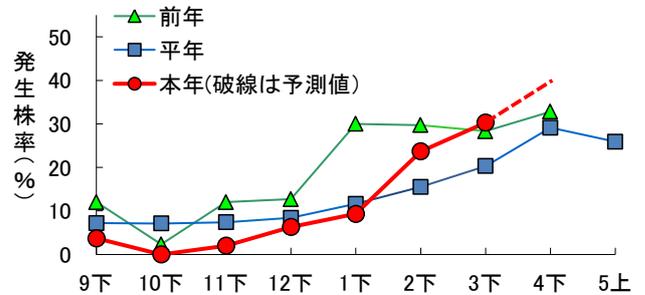


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年より少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年5.1%、前年8.8%）

平年比：少（-） 前年比：少（-）

②病害虫防除員による調査（6圃場）

5圃場で発生確認、発生株率は9.3%（+）

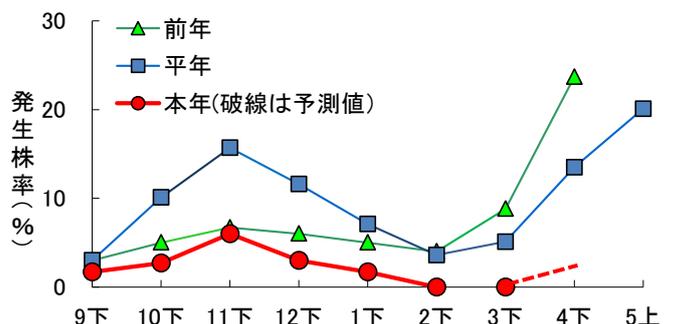


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

- (2) 4月の気象予報
降水量はやや少なく、やや少発生の条件〈一〜±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除においては、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

キュウリ

巡回調査 (8 圃場)
調査日 : 3月15日~16日



巡回調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量 : 平年並 (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 : 6.9% (平年3.2%、前年8.1%)
平年比 : やや多〈±〜+〉 前年比 : 並〈±〉

(2) 4月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件〈一〜±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) こまめな換気を行うとともに、循環扇や加温機を活用し、施設内および葉面の結露を防ぐ。

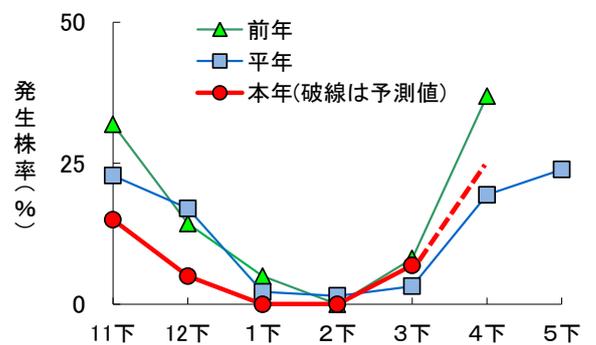


図1 キュウリべと病の発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量 : 平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 : 23.8% (平年4.4%、前年8.1%)
平年比 : 多〈+〉 前年比 : 多〈+〉

(2) 4月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件〈一〜±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場での発生に注意し、計画的な防除を行う。

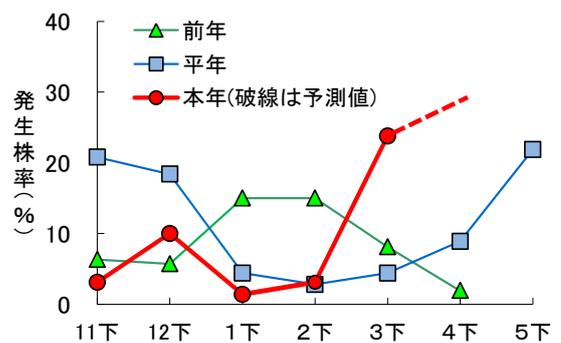


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

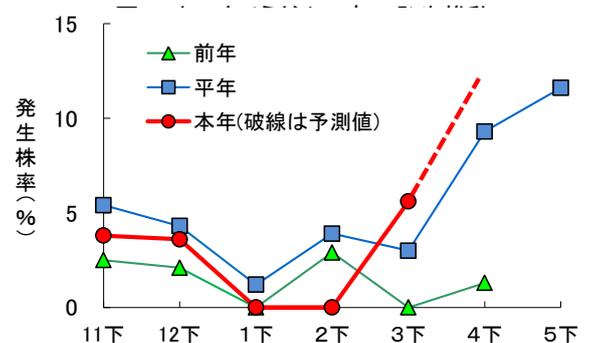
(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 : 5.6% (平年3.0%、前年0%)
平年比 : やや多〈±〜+〉 前年比 : 多〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。



トマト

巡回調査 (8 圃場)
調査日 : 3月15日~17日



巡回調査圃場の様子

1. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
発生量 : 平年よりやや少ない (前年より少ない)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査 (図1 参照)
発生株率 : 6.3% (平年9.9%、前年5.0%)
平年比 : やや少 <一~±> 前年比 : 並 <±>
 - ②病害虫防除員調査 (6 圃場)
2 圃場で発生確認、発生株率は1.7% <一>
 - (2) 4月の気象予報
降水量はやや少なく、やや少発生の条件 <一~±>
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項参照

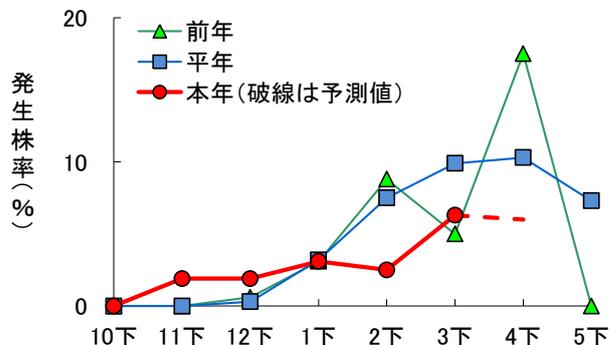


図1 トマト灰色かび病の発生推移

2. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量 : 平年よりやや少ない (前年より少ない)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査 (図1 参照)
発生株率 : 0.6% (平年2.5%、前年3.8%)
平年比 : やや少 <一~±> 前年比 : 少 <一>
 - ②病害虫防除員調査 (6 圃場)
2 圃場で発生確認、発生株率は2.5% <±>
 - (3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項参照

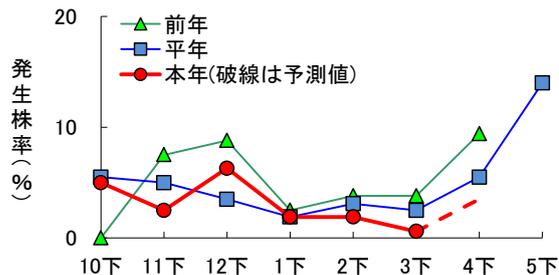


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

ナス (促成)

巡回調査 (7 圃場)
調査日 : 3月14日~17日



巡回調査圃場の様子

1. すずかび病

- 1) 予報の内容
発生量 : 平年より少ない (前年より少ない)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査 (図1 参照)
発生株率 12.9% (平年28.2%、前年38.8%)
平年比 : やや少 <一~±> 前年比 : 少 <一>
 - ②病害虫防除員調査 (4 圃場)
1 圃場で発生確認、発生株率は2.5% <一>
 - (2) 4月の気象予報
降水量がやや少なく、やや少発生の条件 <一~±>

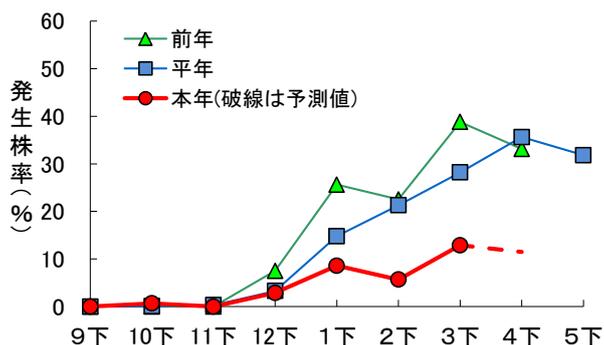


図1 ナスすずかび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病葉は早めに除去し、換気を行うなど適切な湿度管理に努めるとともに、定期的な薬剤散布を行う。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率 0.7%（平年 1.7%、前年 3.1%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：少（-）

②病害虫防除員調査（4圃場）

2圃場で発生確認、発生株率は3.8%（±～+）

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

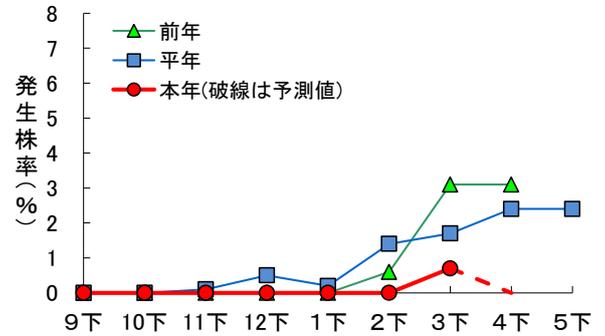


図1 ナス灰色かび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病部位は早めに除去し、発生初期からの防除を徹底する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率 7.9%（平年 7.7%、前年 3.1%）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

②病害虫防除員調査（4圃場）

2圃場で発生確認、発生株率：5.0%（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

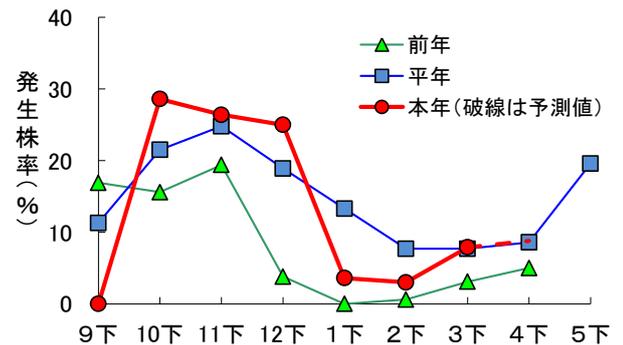


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

4. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率 10.0%（平年 12.1%、前年 1.3%）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

②病害虫防除員調査（4圃場）

1圃場で発生確認、発生株率は2.5%（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

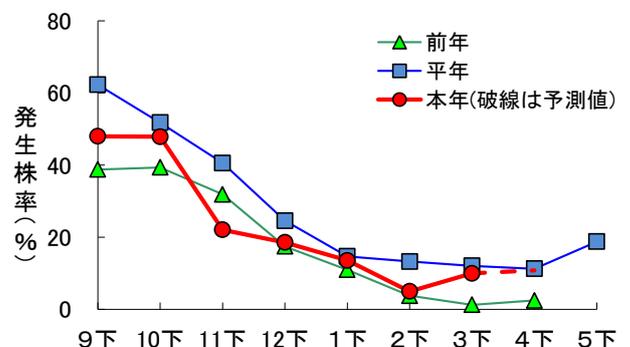


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

カンキツ

巡回調査 (8 圃場)
調査日：3月14日～17日



巡回調査圃場の様子

1. そうか病

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生葉率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 (一～±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 温州みかんでは、展葉初期 (最も伸びた新梢が1cm程度) に薬剤防除を必ず実施する。

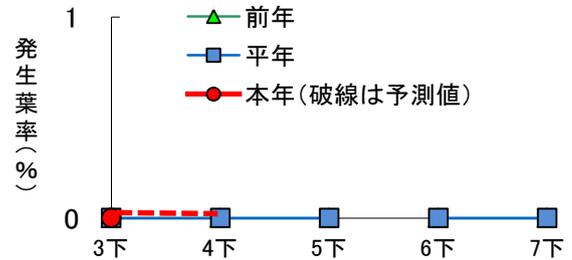


図1 カンキツそうか病の発生推移

注) 5月下旬までは旧葉を調査

2. かいよう病

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生葉率：0% (平年0.4%、前年0%)

平年比：やや少 (一～±) 前年比：並 (±)

②昨年、中晩柑類を中心に多発生圃場が確認されている (±～+)

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 (一～±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

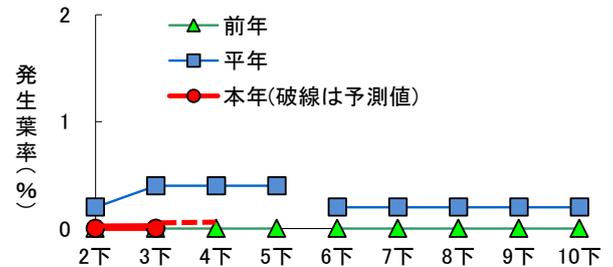


図1 カンキツかいよう病の発生推移

注) 5月下旬までは旧葉を調査

3. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生葉率：2.6% (平年3.3%、前年7.3%)

平年比：並 (±) 前年比：やや少 (一～±)

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや多発生の条件 (±～+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

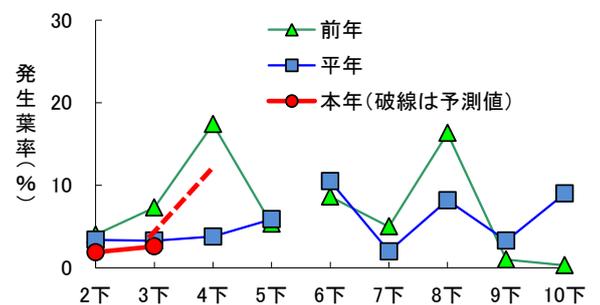


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移

注) 5月下旬までは旧葉を調査

ナシ

1. 黒星病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 昨年秋の発生状況

①巡回調査（平成28年9月下旬）

発生葉率：0%（平年0.9%、前年0.1%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

このことから、園内の菌密度は、平年に比べやや少なく前年並と考えられる。

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

ブドウ

1. 黒とう病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 昨年秋の発生状況

①巡回調査（平成28年9月下旬）

発生葉率：1.0%（平年0.1%、前年1.0%）

平年比：多（+） 前年比：並（±）

このことから、園内の菌密度は、平年より多く前年並と考えられる。

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病枝の剪除と巻きひげの処分を徹底する。

(2) その他は特記事項を参照。

果樹全般

1. カメムシ類

1) 予報の内容（4月～8月上旬）

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) カメムシの越冬状況（H29年2月に調査、表1参照）

①越冬地点率：18.2%（平年38.6%、前年9.1%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：やや多（±～+）

②平均越冬虫数：0.14頭/m²（平年0.23頭/m²、前年0.03頭/m²）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

本虫の越冬密度は平年並で前年よりやや多いと考えられることから、本年4月～8月上旬の果樹カメムシ類の果樹園への飛来量は、平年並で前年よりやや多いと予想される。

3) 防除上注意すべき事項

(1) [H29年3月22日付け病害虫対策資料第22号](#)を参照。

表1 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ成虫の平均越冬虫数¹⁾及び越冬地点率の推移(平成19～29年)。

調査地域	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	平年	H29
みやき町	0.3	0	0	3.0	0	0	0	0.3	0	0.3	0.40	1.0
吉野ヶ里町	0	1.0	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0.20	0
神埼市	0	0.3	0.3	0	0.3	0.7	0	3.0	1.7	0	0.63	1.3
佐賀市	0	0.3	0.7	0.3	0	0	0	0	0	0.3	0.17	0
小城市	0.3	0.3	0.3	0	0	0	0	0	0.3	0	0.13	0
多久市1	0.2	0.8	0.3	0.7	0	0	0	0	0	0	0.20	0
多久市2	-	-	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0.04	0
唐津市1	0	0	0	0	0.3	0	0	0.3	0	0	0.07	0
唐津市2	-	-	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0.04	0
唐津市3	-	-	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0.04	0.3
伊万里市1	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0.3	0	0.06	0
伊万里市2	-	-	0.7	0.7	0	0.3	0	0.3	0	0	0.25	0
伊万里市3	-	-	1.3	0.7	0	1.0	0	1.0	0	0	0.50	0
武雄市1	0	0	0.3	0	0	1.3	0.3	0	0	0	0.19	0
武雄市2	-	-	0	0.3	0	0.3	0	0.7	0	0	0.16	0
鹿島市1	0	0	0.3	0.7	0	0.3	0	0	0.3	0	0.16	0.3
鹿島市2	-	-	0.3	0.7	0.3	0	0	0	0	0	0.16	0
鹿島市3	-	-	0.3	0.3	0	1.0	0.3	0	0.3	0	0.29	0
太良町1	0	0.1	0	0.7	0.3	0.7	0.3	0	0	0	0.21	0
太良町2	-	-	0.7	0.7	0.3	0.7	0.3	0.3	0	0	0.38	0
太良町3	-	-	0.7	2.3	0.7	1.0	0	0	0.7	0	0.67	0
太良町4	-	-	0	1.0	0	0.7	0	0	0.3	0	0.25	0
平均越冬虫数	0.07	0.26	0.37	0.55	0.10	0.36	0.06	0.29	0.18	0.03	0.23	0.14
越冬地点率(%)	27.3	54.5	72.7	59.1	27.3	50.0	18.2	36.4	31.8	9.1	38.6	18.2

1)各地点1m²あたりの虫数. 2)平年は平成19～28年の10年間の平均値。

茶

巡回調査(7圃場)
調査日:3月15日～17日



巡回調査圃場の様子(茶)

1. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率 3.0% (平年 8.1%、前年 3.0%)

平年比: やや少(一～±) 前年比: 並(±)

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや多発生の条件(±～+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。

(2) その他については、特記事項参照。

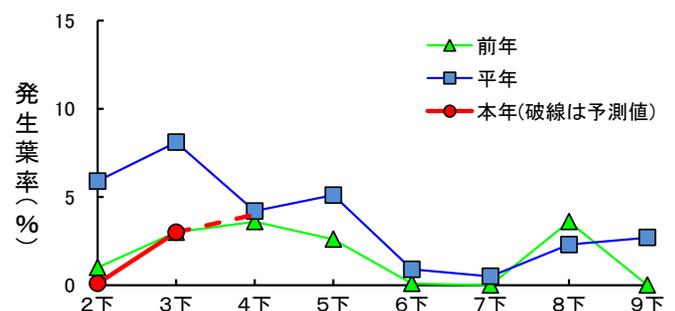


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

キク

巡回調査 (8 圃場)
調査日 : 3 月 14 日 ~ 17 日



巡回調査圃場の様子(キク)

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 0% (平年 3.6%、前年 4.5%)

平年比 : やや少 <一~±> 前年比 : やや少 <一~±>

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 <一~±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 暖房機による送風や循環扇を活用するなどして、適切な湿度管理に努める。

(2) 発病後の防除は難しいため、薬剤の定期的な散布と硫黄粒剤のくん煙処理を組合わせて防除する。

(3) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

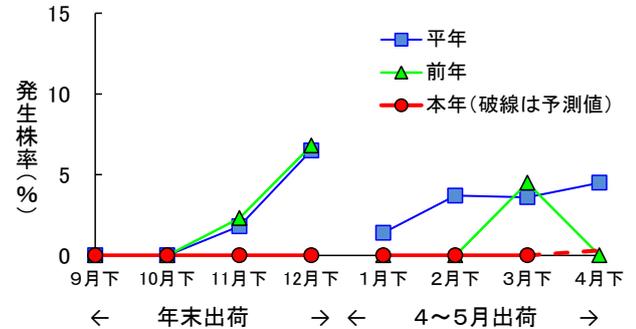


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類 (クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量 : 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 1.0% (平年 2.2%、前年 0%)

平年比 : 並 <±> 前年比 : 並 <±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

(2) その他については、特記事項参照。

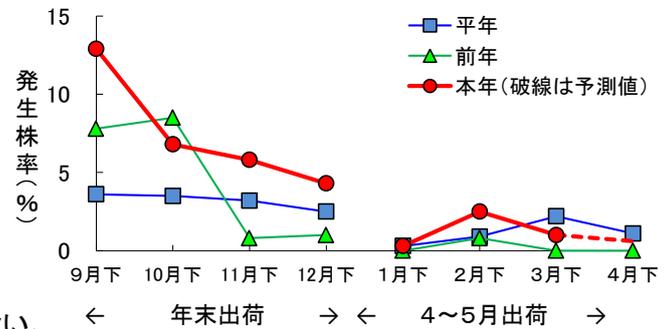


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少ない (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査

発生株率 0.5% (平年 4.5%、前年 5.5%)

平年比 : やや少 <一~±> 前年比 : やや少 <一~±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

(3) その他については、特記事項参照。

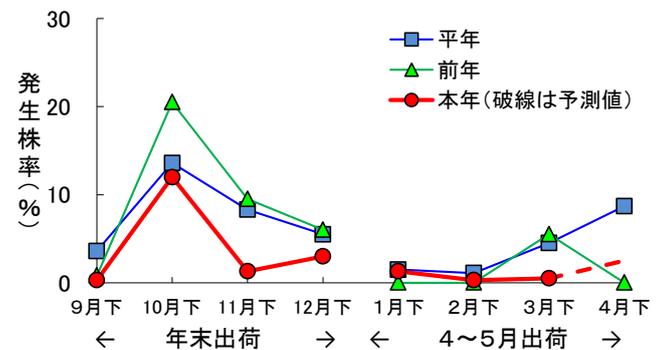


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

4. ハモグリバエ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

被害株率0%（平年0.9%、前年0.3%）

平年比：やや少く（～±） 前年比：並く（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期からの防除を徹底する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

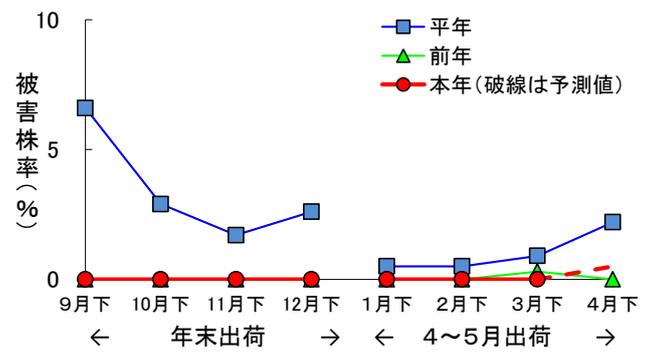


図1 ハモグリバエ類のキクでの被害株率の推移

全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に平成 29 年 2 月 23 日～3 月 20 日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

作物名	病害虫名	九州・沖縄・山口		その他の都道府県	
		注意報	警報	注意報	警報
タマネギ	べと病	2/24 長崎県 2/28 山口県 3/7 佐賀県		3/3 愛知県 3/15 兵庫県	
イチゴ	ハダニ類	2/27 佐賀県		2/28 神奈川県	
カボチャ	ハモグリバエ類	2/14 沖縄県			
イネ	縞葉枯病			3/17 愛知県	

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

作物名	病害虫名	発表日及び発信元
野菜類	葉かび病（レース 2.9 及び 4.9）	3/9 宮城県
	退緑斑紋病（CaCV）	3/9 宮城県

農薬の適正使用を徹底しましょう！

◎農薬を使用する際は、事前にラベルをよく確認しましょう。

農薬の登録内容は変更されることがあります。使い慣れた農薬でも、ラベル等で登録内容を確認して使いましょう。

◎農薬を散布するときには、農薬の飛散に注意しましょう。

使用する農薬が、その周辺で栽培されている農作物で登録（適用）がない場合には、特に注意する必要があります。

◎防除器具は十分洗浄しましょう。

前回使用した農薬をタンクやホース内に残したまま、別の作物に使用すると国が定めた基準値を超過する恐れがあります。



（佐賀県・佐賀県植物防疫協会作成パンフレットから抜粋）

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp